

1. Geophysical scientists hope to discover in the mountain's structure clues to the earth's creation.

《語句》 geophysical:地球物理学の

structure:構造

clue to A:Aの手がかり、Aを解く手がかり[ヒント]

【解答&解説】

英文解釈の基本は、なんといってもS(主語)、V(動詞)、O(目的語)、C(補語)といった文の骨組み(主要素とも言う)を(正確に、素早く)決定する、つまりは見極められることです。

S(主語)、O(目的語)、C(補語)のことを文の主要素と言いましたが、その**主要素になれるのは「名詞(とその仲間)」**だけです。

◎C(補語)については形容詞(の仲間)もなることができる。LESSON BOOK REVIEW

Rule-1 を参照せよ。

ただいくら名詞でも、前に前置詞が置かれ、「前置詞+名詞」となってしまうと、それは主要素にはなれません。つまり**文の主要素になれるのは前置詞のついていない、(裸の)名詞**だけなのです。

このことが理解できているだけで、上の英文の骨組みはカンタンに見極められます。この英文にはいくつか名詞が含まれています。そのうち Geophysical scientists と clue は(裸の名詞)ですが、the mountain's structure と the earth's creation には、それぞれ in と to という前置詞が前に付いています。したがってこれらは文の主要素にはなれません。そこで**文の主要素を確定するためにこれら「前置詞+名詞」をいったん**

()でくくってみるのです。

Geophysical scientists hope to discover (in the mountain's structure) clues

(to the earth's creation).

どうですか? 文構造がスッキリしてきましたね。この英文のS(主語)は Geophysical scientists、V(動詞)は hope (to discover)、そして clues は discover の目的語

だったのです。

④ clues が discover の目的語だとわかるには、discover は基本的に他動詞で、後ろには目的語になれる名詞を必要とするという知識があることが前提になる。

in the mountain's structure は discover を修飾しています(副詞句)。to the earth's creation は clues を修飾しています(形容詞句)。clue to A で「Aの(謎を解く)手がかり」という意味になります。

④ 「句」「節」については LESSON BOOK REVIEW Rule-2 Rule-3 を参照せよ。clue~creation までは「地球創造の(謎を解く)手がかり」となります。

Geophysical scientists hope to discover in the mountain's structure
⑤ 地球物理学者 ④ 〇 ↑

clues to the earth's creation.
④ 〇 ↑ 手がかり 地球創造

そうすると問題文全体は

「地球物理学者たちは、山岳[脈]の構造の中に、地球創造の(謎を解く)手がかりを
発見したいと願っている」

となります。

今の問題で、骨組み(文構造)を見極めるために「前置詞+名詞」をいったん()でくくってみるという作業をしましたが、骨組みを見極めるためにいったん()でくくってしまうといい語句というのは「前置詞+名詞」以外にもいくつかあります。それについては LESSON BOOK REVIEW Rule-5 を参照してみてください。

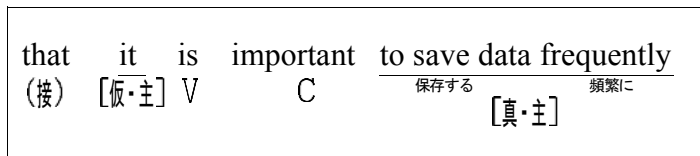
3. I've learned to my cost that it's important to save data frequently.

《語句》 to one's cost: 損害を受けて、ひどい経験をして、大変な目に遭って
save: ~を保存する

【解答&解説】

これも同じタイプの問題で to my cost という前置詞句を()でくくると文の骨組み(主要素)が浮かび上がってきます。

I 've learned (to my cost)
⑤ ⑥ ひどい目に遭って



○

會上の分析図は、主節の主語を⑤、主節の動詞を⑥で表している。そして従属節中の動詞をVで表している。

上の図のように that節が learned の目的語であり、この英文も第三文型(SVO)だったのです(to my cost は learned を修飾する副詞句)。全体の訳はこのようになります。

「私はひどい目に遭って(その結果)、データは頻繁に保存することが大切だということを学んだ」

5. I assume that human beings will eventually, as they call themselves reasonable creatures, have reason and sense enough to solve many problems which lie before them.

《語句》 eventually: ついには、最終的には
reasonable: ①理性的な ②(値段が)手頃な
creature: 生物、存在
reason: ①理由 ②理性 ③道理
sense: ①感覚 ②意識 ③意味 ④良識
lie: 横たわる

【解答&解説】

骨組みは単純で、I がS(主語)、assume がV(動詞)、その後の that節全体が assume のO(目的語)で、全体は第三文型(SVO)です。
assume の意味の類推法は [LESSON BOOK REVIEW Rule-21 2.\(1\)](#) を見てみてください。

「SVO」構文で、「O」が that 節だった場合、「V」の意味は「言う」「思う(みなす・考える)」「知る(分かる)」のいずれかである。

本問の assume は「思う」と訳せばよかったです。

さて次に that節内の構造です。これを見極めるために、前問までで使用したルールを使います。eventually は「副詞」ですね。そして as they call themselves reasonable creatures の部分はカンマとカンマにはさまれた(囲まれた)挿入節です。したがってこれらをいったん()でくくってみるのです。

罫カンマ(,)やダッシュ(-)によってはさまれた部分は(基本的に)文の主要素になることはない。[LESSON BOOK REVIEW Rule-5](#) を参照せよ。

human beings will (eventually) (, as they call themselves reasonable creatures,)

have reason and sense enough to solve many problems which lie before them.

するとどうでしょう。will の後にくるべき動詞の原形は have だったことが見えてきます。that節内のS(主語)は human beings、V(動詞)は will have、そして have の後ろの(裸の)名詞 reason and sense が have のO(目的語)になっているこ

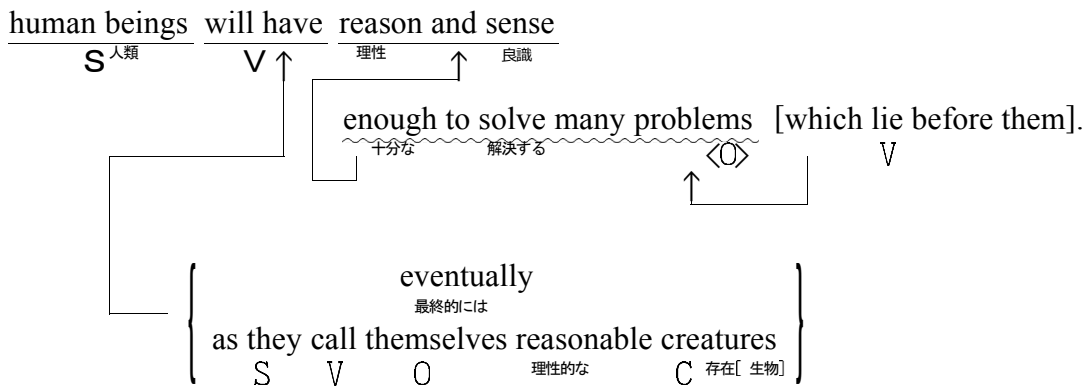
とがわかります。 enough ~ problems までは reason and sense(理性と常識) を修飾しています(形容詞句)。つまり that節内は SVO の構造をしていたわけです。 as they call themselves reasonable creatures の部分ですが、「as S+V」となる as は7割方は「時」「理由」のいずれかでたいてい訳せてしまいます。

尙詳しくは LESSON BOOK REVIEW 85ページ(注2)を参照せよ。

ここは「理由」を表していると見ます。 call は「call O C:OをCと呼ぶ」。そうすると、「人類は自らを理性的な生物と呼んでいるのだから」となります。

as they call themselves reasonable creatures
 S V O C

(that節内の)全体の構造分析図を示してみましょう。



最後に問題文全体の訳はこのようになります。

「自らを理性的生物と呼んでいるのだから[呼ぶからには]、人類も最終的には自らの前に横たわる多くの問題を解決するだけの理性と良識を持つことになるだろうと私は思っている」

今回 call の語法が問われていました。いい機会なので call を用いたイディオムをまとめてみましょう。

《call を用いたイディオム》

- ①call at A(場所): Aを訪ねる、訪問する、立ち寄る
- call on A(人)
- 尙Aが「場所」なら at、「人」なら on を用いる。これは

「Aに立ち寄る」という drop in でも同じで「人の所に立ち寄る」なら drop in on A(人)、「場所に立ち寄る」なら drop in at A(場所)となる。ちなみに visit は「人・場所」どちらも直接後ろにとれる。

(ex) She called at my house yesterday.

彼女は昨日私の家に立ち寄った

I called on Mr. Martin yesterday.

昨日マーチンさんを訪ねた

②call for A: Aを要求する、Aを必要とする

=demand A, require A

(ex) She called for more wine. 彼女はワインをもっと注文した

How much salt does the recipe call for?

この調理法では塩はどれくらい必要になりますか

③call (O) back:(O(人)に) 電話をかけ直す

(ex) Thanks for the news. I'll call (you) back in half an hour.

知らせてくれてありがとう。30分したらこちらからお電話します

④call off A:Aを中止する

=cancel A

⚠ちなみに put off A は「Aを延期する」。postpone A で言い換えられる。

(ex) We were forced to call off the conference.

私達は会議を中止する羽目に追い込まれた

They called off their visit to Paris.

彼らはパリ行きを中止した

6. It is likely that man is always in danger in sticking to an old tradition or attempting to re-establish one of confusing the essential with the unimportant.

《語句》 It is likely that S+V ~: ~する可能性がある、~しがちだ
in doing ~: ~する際に
stick to A: Aに固執する
attempt to do[彫] ~: ~しようとする
re-establish: ~を再建する
confuse A with B: AとBとを混同する
essential: 絶対必要な、重要な

【解答&解説】

この英文中にも前問までの英文と同じように()でくくると骨組みがグッと浮かび上がる挿入語句があったのですが、わかったでしょうか。
実は以下の青字部分が挿入語句だったのです。

man is always in danger in sticking to an old tradition or attempting to re-establish one of confusing the essential with the unimportant.

確かにこの青字部分は「前置詞+名詞」のかたまりです。この部分を()でくくると、

in danger of doing ~: ~する(という)危険性がある

というイディオムが見えてくるわけです。

ではまず(青字部分を除いた、つまり挿入語句以外の)骨組みの部分だけを訳してみましよう。

man is always in danger of confusing the essential with the unimportant.

我々は、重要なものとそうでないものを混同してしまう危険性が絶えずある

ここで難しいのは the essential と the unimportant。これは「the+形容詞」ですね。「the+形容詞(分詞)」は以下の意味を表す可能性があります。

events を修飾する形容詞句)。

最後に some clue ですが、some+可算名詞の単数形となる場合の some は「ある」「何らかの」「ある程度の」と訳します。

(ex) The man worked in some place in Osaka.

その男は大阪のある所で働いていた

I have read that in some book.

何かの本でそれを読んだことがある

ちなみに「some+複数名詞」の some を、「一部の」と訳すということもあります。

(ex) Some students may object. 一部の学生は反対するかもしれない

The President's speech did not please some people.

大統領の演説は一部の人には喜ばれなかった

また「some+数詞」となる場合の some は「約」「およそ」と訳すので注意しましょう。

(ex) Some twenty of our class came to the meeting.

我々の同期のおよそ20人が会合に来た

There were some thirty houses in the block.

その区画には30軒ほどの家がある

しかし、こうやって箇条書き的にその意味を覚えるのは効率的ではありません。実は some というのは「具体的な数・量・名称をはっきり言いたくない場合に用いられる表現」と覚えるといいのです。

一言で言うと some は「(それが指す、またそれが修飾する語を)ぼかしたいときに用いる語」。

そうすると上の some の意味・用例も丸暗記がいらなくなります。

さて最後に全体の訳は以下ようになります。

「歴史家は、歴史の中の無数の出来事から、最も重要であるように思われ、現代史の謎を解く何らかの手がかりを与えてくれる出来事を選び出そうとする」

8. What sometimes appears as child's self-will, as mischief, indifference or rudeness, will instead be a resistance against forming a false relationship.

《語句》 self-will:わがまま	resistance:反発
mischief:腕白、いたずら	form:～を作る
indifference:無関心	false:偽りの、見せ掛けの
rudeness:無作法	relationship:(人間)関係

【解答&解説】

LESSON BOOK REVIEW Rule-5で「カンマとカンマで囲まれた[はさまれた]部分はいったん()でくくると文の骨組みが見えてくる」というルールを読んだ[知った]人が、最初に陥る落とし穴が今回のような問題です。実はカンマは、語句と語句を挿入する際だけに使うものではありません。語句と語句を並列したり、副詞(句・節)と主節を区切ったり、同格(句・節)を導いたり…といろいろな働きがあるのです。

◎カンマの用法の詳細については、LESSON BOOK REVIEW Rule-62を参照せよ。

本問のカンマは、最初の2つは「並列のカンマ」、3つ目のカンマは、「主語が長すぎたことを詫げるカンマ(つまりここで主語が導く語句が終わることを示す)」で、「挿入のカンマ」ではありませんから、()でくくったりしてはいけなかったのです。

さて次に文の骨組みですが、LESSON BOOK REVIEW Rule-6にこんなルールがあります。

「what や how が導く節(句)は基本的にS・O・C、又は前置詞の目的語のいずれかになる」

◎例外は what we call(いわゆる)、what is more(おまけ)等の決まり文句のみ。

本問では what が導く節(いわゆる what節)が文頭に来ており、文末に?もないところから、What節がS(主語)になっているのだろうと予測できます。実際 What は rudeness までを導いていて、この What節がS(主語)です。でもなぜ rudeness までを導いていると(言い方を変えれば、なぜ What節は rudeness までで終わっていると)と言えるのでしょうか。それを見極めるルールも LESSON BOOK REVIEW Rule-4にあります。こんなルールでした。

最後に instead について補足しておきましょう。instead という副詞はけっこう受験生にとっては訳しづらい副詞で、少々練習が必要です。instead という副詞は、「その代わりに」「それどころか」「そうではなくて」などと辞書にはありますが、場合によっては「その代わりに」の「その」を具体的に和訳に出さなければならなかったり、その「その」「それ」「そう」が具体的に何を指しているかが、設問に問われることがあるので注意しましょう。
例文をいくつかあげてみましょう。

(ex) Ted didn't come to my house; so I went to his house instead.

テッドは僕の家には来なかったから、僕の方が代わりに彼の家に行った
Let's go somewhere else instead.

そこでなくどこかほかの所へ行こうよ

My son never studies in the morning. Instead, he plays basketball with his friends.

うちの息子は午前中全然勉強しないで、友だちとバスケをしている

My daughter never studies. Instead, she watches television all day.

うちの娘は全然勉強しない。それどころか1日中テレビばかり見ている

My father didn't take his success for granted, but considered instead it good luck.

父は自らの成功を当然と思わず、むしろ幸運と考えた

☞take A for granted で「Aを当然とみなす」。not A but B で「Aではなくて B」。

The city has its pleasures, but she wished instead for the quiet of country life.

都会には都会なりの楽しみがあるが、彼女はむしろ田舎の生活の静けさを望んだ

☞wish for A で「Aを望む」。

9. Among the interesting custom to observe as you travel around the world are the ways in which people behave in a group.

《語句》 observe: 観察する
 behave: ふるまう

【解答&解説】

まずこの英文の骨組みとなるS(主語)は the ways、V(動詞)は are でした。つかめましたか？

Among the interesting custom to observe [as we travel the world]
 (前) (名) 習慣 ↑ 観察する ↑ S V O
 are the ways [in which people behave in a group].
 (V) (S) ↑ S Vふるまう ↑

LESSON BOOK REVIEW Rule-39 にあるように、この英文は「M+V+S」の倒置構文だったのです。

それから前置詞の among ですが、among には以下の2つの意味があります。

① 「～の間に(で)、～の中に(で)」

(ex) They saw a house among the trees.

彼らは木立の間に家を見た

It was her first night among strangers.

それは彼女が初めて他人の中で過ごした夜でした

He was among the girls. 彼女は女の子たちの中にいた

② 「～のうちの一つ[一人]」 =one of～

(ex) Tokyo is among the largest cities in the world.

東京は世界で最も大きな都市のうちの一つだ

I count Mr. Brown among my friends.

ブラウン氏は私の友人の1人だ
This mountain is among the highest in Japan.
この山は日本でも有数の高い山です
He was among the first to arrive.
彼は最初に到着したうちの1人だった

本問の among は②、つまり「～のうちの一つ」という意味でした。この among の意味を知らない受験生が結構多いのです。要注意です。

それから as は「～の時(に)」と訳せばいいでしょう。

📖 LESSON BOOK REVIEW 85ページ(注2) を参照せよ。

as の後ろの we ですが、これは「一般の人」を表す we です。「一般の人」を表す代名詞には他にも you や one 等がありますが、これらの和訳の仕方は2種類です。

①「我々」「私達」「人」「自ら、自分」と訳す。

(ex) One must do one's duty.

人は自らの義務を果たさなければならない
We are not bad in nature.

人は生まれつき悪人なのではない

②訳さない。

(ex) Unless you cultivate your land, you can't get good crops.

土地を耕さなければ、よい作物は得られない
It is easy to lose one's way in the city.

都会では道に迷いやすい

このうち、実際の英文の訳出ではどちらが多いかというと、「訳さない」方がすっきりとしたいい訳になることが多いのです。覚えておきましょう。

それから the way(s) in which S+V～ は how S+V～、the way S+V～ と同じです。「～の仕方」「どのように～」と訳せばいいでしょう。

そうすると全体はこのような訳になります。

「世界を旅するときに観察することができる興味深い習慣のうちの一つは、人々の集団の中でのふるまい方[どのように集団の中で人々がふるまうのかということ]である」

「前置詞(句)+関係代名詞」の訳出の仕方

これはとある学生からの質問です。

「センターの過去問からなのですが

A sustainable society is one in which people use natural resources carefully, always thinking about how to replace them.

という英文の、構造がよくわかりません。特に one in which の所が？です。いつも前置詞+関係代名詞が出てくると困ってしまうのですが、どうやって読めばよいのでしょうか(〇>ω<〇)。たとえば、前置詞+所有格の関係代名詞などになるとちんぷんかんぷんです…(涙)

彼と同じような問題を抱えている方も多いのではないのでしょうか。まずご指摘の英文の意味は「持続社会とは、人々が天然資源を慎重に活用し常にどのようにそれを代替すべきかについて考えている社会である」となるでしょう。oneは「a+既出の単数名詞」を指すのが基本ですから、ここでは a society を指していると見るべきでしょう

會もちろんこの one[=a society] が in which節の先行詞。in which は、もともと in the society として後続の節内にあったものが the society → which となり、それが直前の in と共に節頭に移動したものです。

で、in which のような「前置詞+関係代名詞」の訳出法ですが、ひとつは、(普通の関係代名詞の場合と同じように)訳さないという方法があります。上の英文の(ボクが作った)和訳でも in which は(単なる二文をつなぐ接着剤と見なし)和訳には出していません。

もう一つの方法は、

- ①「前置詞+関係代名詞」の手前でいったん訳をまとめ、
- ②「そして」「しかし」「なぜなら」といった接続詞を補い、
- ③関係代名詞に先行詞を代入して訳出する

會その際、「前置詞+関係代名詞」部分だけでいったん意味をまとめるといい。

10. The causes for which the diversity of species is decreasing in this natural reserve are complicated and various.

《語句》 diversity:多様性 natural reserve:自然保護区
complicated:複雑な various:様々な
species:種

【解答&解説】

まずS(主語)は、文頭の(裸の)名詞である The causes で問題ないでしょう。

⚠ただし cause は多義語なので、以下でその語法をしっかりおさえない。

(名)①「(～の)原因、種、もと」 ⇔ result, effect:結果

「原因となる人[物]」

(ex) cause and effect 原因と結果、因果

What was the cause of the accident? 事故の原因は何だったのですか

②「理由、わけ、根拠、動機」 =reason

(ex) I have no cause for complaint. 不平を言う理由は何もありません

③「(個人や社会の掲げる)主義、大義、目標、理想」「(…)運動」

(ex) He fought in the cause of justice. 彼は正義のために戦った

(他)①[SVO]「Oを引き起こす、もたらす」 =bring about A

(ex) He caused our failure. 彼が原因で私たちは失敗した

⚠SVOを cause がとる場合、「S=原因」、「O=結果」の関係となる。

②[SVO₁ O₂]「O₁(人)にO₂(損害、苦痛等)をもたらす、与える」

(ex) Your letter will cause him a great deal of distress.

君の手紙に彼はひどく苦しむことになるだろう

③[SVO to do[原形]～]「(結果として)Oに～させる」

(ex) What caused him to change her mind?

何がもとで彼は考えを変えたのか

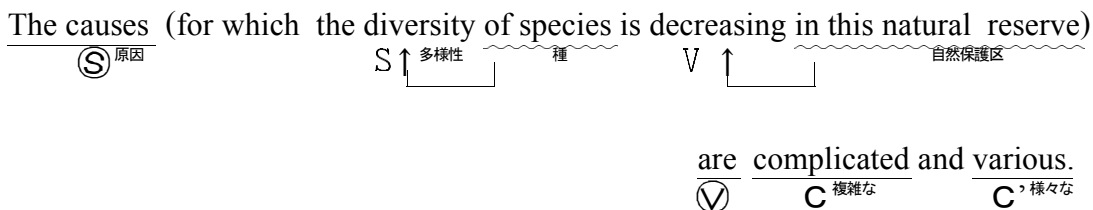
S(主語)の The causes の直後に for which で始まる関係詞節が続いています。こ

こも8と同じ要領で関係詞節の終わりを見抜き、これを()でくくってしまいます。

④関係詞節は(what節、how節を除き)文の主要素にはならない。LESSON BOOK

REVIEW Rule-5 を参照せよ。

つまり節のはじめ(for which)から数えて2つ目の動詞を探すわけです。すると(1つ目が is で)2つ目の動詞として are が見つかります。そこで are の手前で()を閉じ、以下のような構造を見抜きます。



本問は第二文型(SVC)だったわけです。骨組み部分の意味は「その理由は複雑で様々である」。これに関係詞節の意味を(先行詞の The causes にかけて)加えると問題文の和訳は完成します。

④この for which は和訳に出す必要はない。

ただ関係詞節内が進行形(is decreasing)になっていますね。進行形の訳出法は大きく分けて以下の3つです。

- ①「～している(最中だ)」という非完結的な継続
- ②「～しつつある」「～しかかっている」という完結に向けての進行
④変化を表す動詞や到達への接近、瞬間的に終わる動作を表す動詞に多い。
- ③「繰り返し～している」という反復
④頻度の副詞(always等)を伴うことが多い。

本問は②、つまり「～しつつある」と訳すとよかったです。以下が問題文全体の訳になります。

「この自然保護区において種の多様性が減少しつつある理由は複雑で様々である」

さて先程「課外授業1」で、和訳に出した方がいい「前置詞(句)+関係代名詞」もあることについて説明しましたが、そのような「前置詞+関係代名詞」の前置詞の主要なものをあげてみましょう。

(a) round「～のまわりに」 despite「～にもかかわらず」 regarding「～に関して」 concerning「～に関して」
according to「～によれば」 during「～の間」 as to「～に関して」 since「～以来」
because of「～の故に」 except「～を除いて」 besides「～以外に」 in front of「～の前に」
about「～について」 without「～なしに(は)」

では「和訳に出す必要がある前置詞(句)+関係代名詞」の演習問題をやってみましょう。

- ① Vitamin is the substance without which our body can't function.
- ② Lincoln is a famous American politician, about whom many books have been written.
- ③ We were interested in the information, according to which there was some possibility to increase sales in the market.
- ④ The snow storm raged all night, during which time the climbers had to wait to be rescued in the tent.

【解答】

- ① 「ビタミンは、それなしには人間の体が機能しない物質です」
- ② 「リンカーンは有名なアメリカの政治家であり、(そして)彼については多くの書がこれまで書かれてきた」
- ③ 「我々はその情報に興味を持った。というのはそれによれば、その市場で売り上げを伸ばす可能性があったからだ」
- ④ 「その吹雪は一晩中吹き荒れ、そしてその間、登山者達はテントの中で救援を待たなければならなかった」

④ 「,+前置詞+which+名詞」の形になる英文は、その部分を「and[but]+前置詞+that[those]+名詞」で書き換えられる。④の英文も以下のように書き換えられる。

→ The snow storm raged all night and during that time the climbers had to wait to be rescued in the tent.

このタイプの例をもう一つあげておこう。

(ex) The unit might not get the information, in which case they will be exposed to danger.

《語句》

unit:部隊

be exposed to A: Aにさらされる

【解説】

上記の考え方をういて、以下のように書き換えてみる。

The unit might not get the information but in that case they will be exposed to danger.

そうすると「その部隊はひょっとするとその情報を得ていないかもしれないが、しかしその場合、部隊は危険にさらされることになるだろう」と訳せる。

《課外授業2》

英文中の分詞の働きの大半は形容詞と同じ。

以下の英文の文構造と意味が取れますか？

The parents using new genetic screening techniques managed to have a baby girl.

《語句》 genetic screening techniques: 遺伝子選別技術
manage to do[願]~:(どうにか)~できる

まず簡単な文構造を書いてみましょう。

The parents using new genetic screening techniques
⑤ ↑ _____
_____ managed to have a baby girl.
⑥

意味は「新しい遺伝子選別技術を利用した両親が、女の赤ん坊を生むことができた」となります。

上の分析図を見てわかるように、この英文の中で using~techniques までは、主語の The parents を修飾する形容詞句です。しかしなぜそう言えるのでしょうか？

それは以下のようなプロセスでわかるのです。

- ① The parents は初めて現れた(前置詞の付いていない)裸の名詞なので主語だと判断する。
- ② 直後の using は、動名詞、現在分詞両方の可能性があるが、
 1. 主語の直後にまた動名詞が連続するというのも不自然
 2. using を動名詞、The parents をその意味上の主語とみなしても、V(動詞)の manage (to have) と意味的につながらないので、ここは現在分詞と判断する。
- ③ 英文中の分詞の働きの大半は形容詞と同じ。つまり
 1. 直前直後の名詞を修飾する
 2. C(補語)になるのいずれか。S C V という文型はないので、名詞、つまり直前の The parents を修飾していると見る。

という流れです。

特に「**英文中の分詞の働きの大半は形容詞と同じ**」という考え方は分詞の英文中での働きを見極める上でとても役に立つのでしっかり覚えておきましょう。

會残りの(つまりそれ以外の)働きとは「動詞的な働き」だ。具体的には以下になる。

- ① 「be動詞+現在分詞」という形で、進行形(～している最中だ)を作る。

(ex) He is **playing** baseball at the park.

彼は公園で(今)野球をしています

- ② 「be動詞+過去分詞」という形で、受動態(～される)を作る

(ex) He is **loved** by everybody. 彼はみんなから愛されている

- ③ 「have[had]+過去分詞」という形で、完了形を作る。

(ex) He has **gone** to America. 彼はアメリカに行ってしまった

これ以外に「分詞構文」という(文法的には)副詞的な働きもあるが、これはある意味分詞の特殊な用法とっていいだろう。

一応分詞構文の例もあげておこう。

(ex) Driving in the country, I felt refreshed.

田舎をドライブしたら、気分が爽快だった

John returning safe, everybody was relieved.

ジョンが無事戻ったので、みんなはほっとした

主語(S)と動詞(V)の間に挿入される可能性のある語句(節)

主語(S)と動詞(V)の間に挿入される可能性のある語句(節)には、以下のようなものがあります。



それぞれの働きの可能性を整理してみましょう。

まずその前に、基本的にそのような(主語と動詞の間に挿入される)語句・節の文中での働きは、以下の2つのいずれかです。

- 1.形容詞的にSを説明(修飾)している。
- 2.副詞的にV(又は文全体)を修飾している。

では上記の語句・節が、具体的にそのどちらの働きをする可能性があるのかを見ていくことにしましょう。

(1)名詞(句)…形容詞的にSを修飾する。

S+名詞+V～. となる場合、名詞は、Sと同格で、「S=名詞」の関係になっていると見るといいでしょう。名詞部分は、Sの「身分・性質・行動」等の説明であることが多いと言えます。

(ex) John — **the only son of the Foreign Minister** — was deeply interested in the international situation.

その外務大臣の一人息子のジョンは、国際情勢にとっても関心を持っていた

上の英文でも、the only son of the Foreign Minister(その外務大臣の一人息子)は、Johnの(身分の)説明(つまりJohnとイコール関係)に

なっています。

(2)形容詞(句)…Sを修飾する。

例を挙げてみましょう。

(ex) A person **kind to other people** is loved by those around him.
他人に親切な人間は、周りの人から愛されるものだ

上の英文の kind(形容詞)が導く句(kind ~ people)は、S (A person)を修飾しています。

(3)副詞(句)…1.形容詞的にSを説明(修飾)している。

2.V(又は文全体)を修飾する。

Sを修飾している例を挙げてみましょう。

◎副詞は、基本的に名詞以外を修飾するものなのだが、以下のように副詞が直前の名詞を修飾する例も、(数は少ないが)中にはある。

(ex) Many people **there** were astonished by his reaction.
そこにいた多くの人が彼の反応にビックリした

Vを修飾している例を挙げてみましょう。

(ex) The door **suddenly** opened. ドアが突然開いた

以下の英文では reasonably は文全体を修飾しています。

(ex) You **reasonably** expect her to come.
彼女は来るものと君が考えるのはもっともなことだ

(4)不定詞(句)…1.形容詞的にSを説明(修飾)している。

2.副詞的にV(又は文全体)を修飾している。

Sを修飾している例を挙げてみましょう。

(ex) The first person **to have set foot on the moon** is Neil Armstrong.
月面に足を踏み入れた最初の人間は、ニール・アームストロングだ

V(又は文全体)を修飾している例を挙げてみましょう。

(ex) The people, **so as to see the parade better**, all stood up.

人々は行進がもっとよく見られるように、全員立ち上がった

(5)分詞(句)…1.形容詞的にSを説明(修飾)している。

2.副詞的にV(又は文全体)を修飾している。

Sを修飾している例をあげてみましょう。

(ex) The man **waiting for an hour there** began to cry at last.

そこで1時間待っていた男は、ついに泣き始めた

The train **just arrived at Platform 1** is from Los Angeles.

ついさっき1番線に到着した列車はロス発です

V(又は文全体)を修飾している例を挙げてみましょう。

(ex) This train, **starting at two**, arrives in London at nine.

この列車は2時に出発し、9時にロンドンに着きます

Mr. Tanaka, **born in America**, is proficient in English.

田中氏はアメリカで生まれたので英語が上手だ

The little girl, **with tears running down her cheeks**, called out to her mother.

ほおに涙を流しながら、その少女は母親に大声で呼びかけた

V(又は文全体)を修飾する分詞(句)とは、分詞構文のことなのですが、その場合、上例のようにカンマで区切られることが多いと言えます。

つまり

S 分詞句 V～

という場合には、その分詞句はSを修飾し、

S , 分詞句 , V～

という場合には、その分詞句は(分詞構文として)V(又は文全体)を修飾していることが多いのです。

①ただし場合によってはカンマで区切られていても前のSにかけて訳した方が良くもあるので、そのあたりは臨機応変に判断する。

②分詞構文の場合、「時(～のとき)」「理由(～ので)」「条件(もし～なら)」「譲歩(～けれど、～にもかかわらず)」「同時(～しながら)」「連続(そして～)」のいずれかで訳すといい。

実際これは分詞構文に限ったルールではありません。つまり、

S , ~~~~~ , V~

と、(SとVの間の)挿入部分がカンマとカンマ(あるいはダッシュとダッシュ等)で区切られていた場合、たいていはその挿入部分はV(又は文全体)を修飾していると考えていいでしょう

例外は挿入部分が名詞の場合です。

◎名詞の場合は同格としてSを説明[修飾]していることが多い。

下の英文でも、*our English teacher* はS(*Mr. Brown*)と同格になっている。

(ex) *Mr. Brown, our English teacher, is my favorite.*

うちの英語の先生のブラウン先生はボクのお気に入りです

(6)前置詞句…1.形容詞的にSを説明(修飾)している。

2.副詞的にV(又は文全体)を修飾している。

Sを修飾している例をあげてみましょう。

(ex) A girl *with blue eyes* approached me.

青い目をした女の子が私の方に近づいてきた

Vを修飾している例を挙げてみましょう。

(ex) Nancy , *from across the street* , called to me.

ナンシーは、通りの向こうから私に声をかけてきた

(7)that節…形容詞的にSを説明(修飾)している。

S that節 V~. となる場合、that節は「関係代名詞節」「同格節」両方の可能性があります。どちらにしてもSを説明[修飾]していると考えていいでしょう。特に「同格節」の場合は、「S=that節」の関係になります。例をあげてみましょう。

(ex) The news *that he won the game* surprised us.

彼がその試合に勝ったという知らせは私たちに驚かせた

上例の that節は同格節です。「S(The news)=that節」の関係になっています。「同格節」を導く場合、「~というS」と和訳をまとめるといいで

しょう。

(ex) The dress **that my mother bought for me** suits me perfectly.
母が私のために買ってきたドレスは私にぴったり合う

上例の **that** 節は関係代名詞節です。

④「同格節」と「関係代名詞節」の見極め方は、「同格節」を導く **that** は接続詞なので直後に「完全な文」を導く。それに対し「関係代名詞節」を導く **that** は直後に「(S・O・Cのどれか一つが欠けた)不完全な文」を導く。上例でも **that** の後ろには **bought** の目的語が欠けた「不完全な文」がきている。

(8)疑問詞節…形容詞的にSを説明(修飾)している。

これは、Sが **question** のような名詞で、疑問詞節がそのSと同格となる場合に起こります。「S＝疑問詞節」の関係になります。「同格節」を導く場合、「～というS」と和訳をまとめるといいでしょう。

(ex) The question **who we should elect chairman** bothered him.
誰を議長に選ぶかという問題が彼を悩ませた

(9)whether節…1.形容詞的にSを説明(修飾)している。

2.副詞的にV(又は文全体)を修飾している。

Sを説明(修飾)するのは、**whether** 節が同格節となる場合です。その場合、「S＝**whether** 節」の関係になります。意味は「～かどうか」と訳します。全体は「～かどうかというS」と和訳をまとめるといいでしょう。

(ex) The question **whether she knew the secret** remains.
彼女がその秘密を知っていたかどうかという疑問が(依然として)残る

whether 節が副詞的にV(又は文全体)を修飾する場合、「～であろうとなかろうと」と訳します。

(ex) The round trip, **whether on foot or by car**, would be dangerous.
その一周旅行は徒歩であれ車であれ危険なものであろう

whether 節が(SとVの間で)副詞節となる場合は、上例のようにたいてい

カンマによって区切られます。

(10)関係詞節…形容詞的にSを説明(修飾)している。

例をあげてみましょう。

(ex) Babies **who are allergic to milk** shouldn't be given it.

牛乳アレルギーの赤ん坊に牛乳を飲ませてはいけない